

2025年4月3日にトランプ大統領が発表した相互関税に関して、4月7日から4月11日のFX自動売買において注意すべき点を調査します。

特にドル円・ユーロドル・ポンドドル・AUDCADを対象に、朝スキャルピング、逆張り、ブレイクアウトといった戦略別の影響を整理し、CPIやPPIといった経済指標も考慮してまとめます。

2025年4月7日週のFX自動売買への影響分析 ～トランプ相互関税発表を受けて～

背景：トランプ大統領の相互関税政策と市場環境

2025年4月3日、トランプ米大統領は全ての輸入品に一律10%の基本関税を課し、各国の関税や非関税障壁に応じて追加関税を上乗せする「相互関税」政策を発表しました。例えば日本への関税率は24%、EUは20%、英国は10%とされ、中国には既存20%に加えて34%を追加するなど、約57か国・地域が対象となります。この基本関税は4月5日に発効し、国別の追加分は4月9日に発効する予定です。市場では米国発の大規模関税導入による世界的な貿易戦争リスクが意識され、発表直後からリスク回避の動きが強まりました。

ニューヨーク市場では関税発表を受けてドルが主要通貨に対して急落し、ユーロおよび安全資産と見なされる円・スイスフランに対して6ヶ月ぶりの安値水準となりました ([NY外為市場＝ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#))。実際、4月3日の終盤にはユーロ/ドルが1.1037ドルまで急騰(1日で+1.74%)し、約6ヶ月ぶり高値を更新しました ([NY外為市場＝ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#))。同日、ポンド/ドルも1.30ドル台を回復(+0.66%)しています ([NY外為市場＝ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#))。一方、ドル/円は急激な円買いにより150円近辺から145円台半ばまで下落し、こちらも約半年ぶりの円高水準に達しました ([Dollar sinks as investors grapple with tariff aftermath | Reuters](#))。このように貿易戦争懸念による株安・リスク回避から、投資家資金が安全通貨の円やスイスフラン、相対的に堅調なユーロに流入し、米ドルやコモディティ通貨が売られる展開となっています ([NY外為市場＝ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#)) ([豪ドル週間見通し：伸び悩みか、米国の相互関税の影響を引き続き警戒 投稿日時：2025/04/05 13:52 \[フィスコ\] - みんかぶ](#))。

今後も関税措置への各国の報復や追加交渉が不透明な中、市場の不安定さが続く可能性があります。特に**「関税ショック」とも言われる状況下でボラティリティが高まっており、為替相場は通常以上に急変動しやすい環境です。以下では、4月7日から11日の週に焦点を当て、主要な経済イベントと対象通貨ペアへの影響を整理し、採用中の自動売買戦略ごとにリスク要因や注意点**、予想されるボラティリティ、重要なタイミング・価格水準について考察します。

該当週の重要イベント：経済指標（CPI・PPI）と関税発動日程

対象週（4/7～4/11）には**重要な経済指標の発表**が控えており、市場参加者の注目を集めます。特に**米国の3月消費者物価指数（CPI）**は4月10日（木）午前8時30分（米東部時間）に発表予定（日本時間同日21時30分）であり、**3月生産者物価指数（PPI）**は翌4月11日（金）午前8時30分（米東部時間）に予定されています。これらインフレ指標は、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融政策見通しに直結するため、通常時でも為替相場を大きく動かします。特に今回は関税導入により今後インフレ圧力が高まるとの見方もあり、市場はインフレ動向に一層敏感になっています（[FX Weekly - MUFG Research](#)）。指標結果が予想から大きく乖離した場合、ドル金利見通しの修正を通じてドルの方向感に影響を及ぼし、急激な価格変動（スパイク）が起こり得るでしょう。

また、週央の4月9日（水）には前述の**国別追加関税の発動日**（米東部時間0時01分＝日本時間同日13時01分）を迎えます。このタイミングに向けて各国から協議や対抗措置に関する発言が出る可能性があり、市場心理を揺さぶる材料となり得ます。実際、週末時点でも中国や欧州各国が強い不満を表明しており、報復関税の可能性が取り沙汰されています。したがって**4月9日前後**は政治・通商関連ニュースにも注意が必要です。加えて、4月10日には米FOMC議事要旨（3月会合分）の公表も予定されており（[FX Weekly - MUFG Research](#)）、金融政策面での手掛かりにも目配りする必要があります（もっとも今回は関税問題のインパクトが大きく、やや影が薄くなるとの見方もあります（[FX Weekly - MUFG Research](#)））。

以上のように、この週は**「貿易戦争懸念」というテーマと「重要指標発表」というイベント要因**が重なるため、為替市場の変動は普段以上に大きくなる可能性があります。特に下記の通貨ペアは、それぞれ異なる性質でこれら材料の影響を受けると考えられます。

- **ドル円（USD/JPY）**：貿易戦争リスクによる典型的なリスクオフ相場では円高・ドル安圧力がかかりやすいです。実際に来週のドル円は一段と円高が進むとの見出しも出ており、**144円前後やそれ以下（142円程度）の円高余地**を警戒する声があります。もっとも、日本銀行の金融政策姿勢（利上げ後退）もあり急激な円高には歯止めも予想され、ドル円の下値メドは147～148円程度との見方もあります。いずれにせよ**通常より値幅が拡大しやすい局面**であり、**1日の変動幅が数円に及ぶ可能性**を念頭に置く必要があります。
- **ユーロドル（EUR/USD）**：米国発のリスク回避局面ながら、**ユーロは「意外な勝者」**との指摘があるほど堅調です（[相互関税巡る混乱、ユーロが意外な勝者に－対ドル6カ月ぶり高水準 - Bloomberg](#)）。関税ショック後、ユーロ/ドルは6ヶ月ぶり高値まで急伸し、**パリティ予想が覆されるほど強気に転じた**との分析も出ています（[相互関税巡る混乱、ユーロが意外な勝者に－対ドル6カ月ぶり高水準 - Bloomberg](#)）。これは「米国経済への不信感」によるドル資産からの資金流出でドル安が進行する一方、欧州経済への政策対応（防衛・インフラ支出拡大など）期待

がユーロを下支えしているためです ([相互関税巡る混乱、ユーロが意外な勝者に一対ドル6カ月ぶり高水準 - Bloomberg](#))。結果としてユーロドルは1.10台を突破し、テクニカルにもここ数ヶ月のレジスタンスを上抜けています ([NY外為市場=ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#))。来週も米指標次第では更なるユーロ高余地があり、1.11~1.12といった上値ターゲットも視野に入ります。一方で下値は1.08~1.09台がサポートゾーンとして意識されそうです。

- **ポンドドル (GBP/USD)** : ポンドも対ドルでは上昇していますが、その上昇幅はユーロに比べると限定的でした ([NY外為市場=ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#))。英国も米関税の対象 (基本関税10%) となり**免除を勝ち取れなかった**ため、市場は英国経済への波及を懸念しています ([Trump's reciprocal tariffs dominate currency markets - TorFX News](#))。英国は対米輸出依存度が高く、自由貿易に開かれた経済だけに、世界的な貿易停滞の影響を受けやすいと指摘されています ([Trump's reciprocal tariffs dominate currency markets - TorFX News](#))。したがって、ポンドドルはドル安トレンドに追随しつつも**上値は重い**展開が予想されます。重要な心理的水準として**1.30ドル**がありますが、この維持/ブレイクに注目しつつ、上下方向の仕掛けに備える必要があります。
- **オーストラリアドル・カナダドル (AUD/CAD)** : 両通貨とも「コモディティ通貨」でありリスクセンチメントに敏感ですが、今回の関税措置ではそれぞれ微妙に事情が異なります。豪ドルは米国から見て**中国経済の代理指標**的な側面があり、米中対立激化の懸念から大きく売られました。実際、発表翌朝のアジア市場で**豪ドルは主要通貨に対して1%以上急落**し、高ボラティリティ状態となっています ([Trump's reciprocal tariffs dominate currency markets - TorFX News](#))。また「世界経済減速→資源需要減少」の見方により、豪州経済への逆風と追加利下げ観測が台頭し、リスク回避の豪ドル売り・米ドル買いが拡大しました ([豪ドル週間見通し：伸び悩みか、米国の相互関税の影響を引き続き警戒 投稿日時：2025/04/05 13:52\[フィスコ\] - みんなぶ](#))。一方、カナダドルは米国の二大貿易相手国として**今回新たな追加関税の適用を免れたもの**、原油など商品市況の悪化が懸念される局面では下押し圧力を受けます。先週後半には原油価格や株価急落に連れ、**AUD/CADは急落して一時0.86台まで下値を拡大**したとのデータもあります (4月4日に前日比-3.4%の下落) ([Trump's reciprocal tariffs dominate currency markets - TorFX News](#))。来週もリスクオフ基調が続けば**豪ドルの一段安 vs 加ドル**が進行しやすく、0.85付近の節目が視野に入ります。一方、リスク環境の改善や資源価格反発があれば急反騰の可能性もあるため、**乱高下に注意**が必要な通貨ペアです。

以上を踏まえ、次節以降では**自動売買戦略**ごとに、この週で警戒すべきポイントを整理します。それぞれの戦略において、どのようなリスクシナリオに備えるべきか、相場変動への対応策や重要なタイミングについて述べます。

戦略別：リスク要因と注意点

1. 朝スキャルピング（東京市場初動を狙う）

戦略概要: 東京市場が開く日本時間朝9時前後の為替レートの動きを数 pips～十数 pips 狙いで素早く利ざやを取る手法です。通常、早朝は前夜の海外市場の流れを引き継ぐ動きや、東京市場参加者による新たな注文フローで小幅なトレンドが発生しやすい時間帯です。しかし、今週のように**グローバルな材料で相場が動揺している局面**では、東京時間の初動も平常時と異なる挙動が予想されます。

- **主要リスク要因:** 週明け4月7日（月）朝は、**週末のニュースによるギャップ（窓開け）** リスクに注意が必要です。4月5日には米国の一律関税が発効しており、週末に各国から何らかの声明や対抗策が出た場合、月曜朝のオープンでドル円が大きく跳ねたり沈んだりする可能性があります。実際、前週末（4月4日）は米株式市場が急落しダウ平均が前日比2,231ドル安となるなど（[NY外為市場＝ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#)）、週明けも投資家心理が不安定な状況が想定されます。特に**リスク回避が強まった場合は円買いが先行しやすく、ドル円や豪ドル円は下方向に窓開けするリスク**があります。一方、米政府要人から楽観的な発言が出るなどしてリスク緩和ムードになれば逆方向のギャップも否定できません。いずれにせよ**普段以上の窓幅を想定し、ロスカットや指値注文の管理に留意する必要があります。**
- **重要なタイミング:** 今週は**水曜日（4/9）朝**も注意が必要です。日本時間の当日午後に例の追加関税発動を控えるため、**その直前の東京市場でポジション調整**が起こり得ます。例えば、追加関税が予定通り実施される見通しであれば、午前中から株安・円高方向の思惑が強まる可能性があります。逆に「一部猶予」「交渉継続」といった報道が出ればサプライズ的にリスクオンへ振れるかもしれません。また、**金曜日（4/11）朝**は前夜に米CPI発表があった直後となるため、その結果を織り込む形で**ドルの方向感が急変**しやすい時間帯です。例えばCPIが予想を下回りドル売りが進めば、東京朝の時点でもドル安（ドル円下落・ユーロドル上昇）の流れが続いているでしょうし、予想を上回ればドル買い戻しの動きが出ているかもしれません。このように**各日ごとの材料と時間帯**を踏まえ、スキャルピングのエントリータイミングを見極めることが重要です。
- **戦略上の注意点:** 朝スキャルピングでは本来、小幅な値動きを前提に短時間での売買を繰り返しますが、今週は**想定以上の乱高下**に巻き込まれるリスクがあります。以下の点に注意しましょう：
 - **スプレッド拡大:** 市場の不確実性が高い局面では、マーケットオープン直

後に流動性が低下し、スプレッドが平時より広がることがあります。約定滑り（スリッページ）も発生しやすいため、指値が意図しない価格で約定する可能性もあります。特にクロス円通貨（ドル円や豪ドル円など）は株式市場の寄り付き動向にも左右され、株価次第で一方向に走りやすいです。**オープン直後数分間は様子を見るか、スプレッドの状況に応じて取引を控えるなど、安全策を取りましょう。**

- **窓埋め期待の禁物:** 窓開けが発生した場合、「いずれ窓を埋める」という相場格言もありますが、今回のようなファンダメンタルズ主導のギャップは**短時間で埋まらず拡大する恐れ**があります。例えば4月3日の発表直後、豪ドルは急落しましたが ([Trump's reciprocal tariffs dominate currency markets - TorFX News](#))、その後も弱含みが続き当面戻さない展開となりました。同様に、週明けの窓開けもすぐに埋まる保証はありません。トレンド方向への順張りを心がけ、逆張りの窓埋め狙いは避けるのが無難です（※逆張り戦略については後述）。
- **朝のニュースチェック:** スキャルピングEAを走らせる前に、その日の早朝に出たニュースを確認しておきます。特に今回の関税問題では、日本時間早朝に欧米要人のコメントが報じられる可能性があります。**大きなヘッドライン（関税に関する新情報や各国経済指標の速報値など）が出ていれば、その日は一時稼働を停止する判断も検討すべきです。**短期売買では一度の急変動が致命傷となりかねないため、「重大ニュース時はポジションを持たない」ルール徹底が重要です。

以上の点を踏まえ、朝スキャルピング戦略では**慎重なエントリーとリスク管理の徹底**が求められます。東京市場の初動は大きなチャンスが潜む一方、今週は不確実性も高いため「無理をしない」スタンスで臨むことが賢明でしょう。

2. 逆張り（リバーサル狙い）戦略

戦略概要: 急激な値動き（急騰・急落）に対して、行き過ぎた部分の反動を狙って逆方向のポジションを取る手法です。相場が短期的にオーバーシュートした際の戻り（押し目や戻り目）から利益を得るのが狙いですが、**トレンドが明確に出ている局面では損失を被りやすいハイリスク戦略**でもあります。今週のように強いファンダメンタルズ材料（貿易関税）が相場を動かしている場合、逆張り戦略には特段の注意が必要です。

- **主要リスク要因:** **トレンドの持続性**です。現在の市場は「米国の関税ショック→世界経済減速懸念→ドル安・円高・資源通貨安」という明確な流れが生じています ([NY外為市場＝ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#)) ([豪ドル週間見通し：伸び悩みか、米国の相互関税の影響を引き続き警戒](#) 投稿日時：2025/04/05 13:52[フィスコ] - みんなぶ)。この大きな潮流に逆ら

って短期的な反発を取ろうとすると、戻りが小さかったり戻らずにさらにトレンドが進行したりする危険性があります。例えばドル/円が急落している局面で「そろそろ底だろう」と買い向かったものの、貿易戦争懸念が収まらずさらに数円下落するようなケースです。実際、野村証券のストラテジストは「報復関税が予想され株安・円高の調整局面が続く。ドル円は144円程度まで円高が進む可能性がある」と述べており、**短期的にも戻り売り優勢**の相場観が示されています。このように市場参加者の多くがトレンドフォローに動く場合、逆張りでのエントリーは不利となりがちです。

- **逆張り戦略への影響:** 対象通貨ペア別に見ると、**ドル円**ではリスク回避の円買いトレンドが継続中であり、安易な押し目買いは危険です。例えば148円→145円まで急落した後に買いを入れても、さらに144円台まで下げる可能性が示唆されている状況です。**ユーロドル**ではドル安トレンドが強く、戻り売り（ドル買い・ユーロ売り）を狙っても反発が浅く終わるリスクがあります。実際、関税発表後のユーロドル上昇率は近年稀に見る大ききさで（[NY外為市場＝ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#)）、流れに逆らった売りポジションは踏み上げられやすい地合いです。**ポンドドル**についても同様ですが、こちらはユーロほどの上昇モメンタムではない分、テクニカルな押し目形成もあり得ます。ただし前提として米ドルの地合いが弱いことになりやすく、ファンダメンタルズに反した逆張りは分が悪いでしょう。**AUD/CAD**は先週後半に急激にAUD売り・CAD買い方向へ動いたあとだけに、短期的な自律反発（AUD買い戻し）が入る可能性もあります。しかし豪ドルに関してはRBA利下げ観測まで台頭した流れであり（[豪ドル週間見通し：伸び悩みか、米国の相互関税の影響を引き続き警戒 投稿日時：2025/04/05 13:52\[フィスコ\]-みんかぶ](#)）、戻りがあっても限定的と見る向きが多い点に注意です。総じて**主要通貨ペアはいずれも強いトレンドまたはモメンタムが発生しており、逆張り戦略には逆風**と言えます。
- **注意点と対策:** 逆張り戦略をこの週に適用する場合、以下の点を考慮してください。
 - **エントリー条件の厳格化:** 通常以上に「行き過ぎ」の明確なシグナルを待つ姿勢が重要です。例えば5分足・15分足レベルでスパイク的な値動きが発生し、その後出来高減少やヒゲを伴う反転サイン（ピンバーなど）が出るまでエントリーを見送る、といった慎重さが求められます。単なるオシレーターを買われ過ぎ・売られ過ぎだけで飛び込むのは危険です。**ファンダメンタルズに反する逆張りは、「材料出尽くし」や「サプライズな好転ニュース」など明確な転機がない限り成功しにくい点**を肝に銘じましょう。
 - **ポジションサイズと損切り:** 逆張りは失敗した際の損失が膨らみやすいため、ポジション量を平常時の半分以下に抑えるなど保守的に運用します。また逆行した場合の損切りラインも深追いせず、**ルールに従って素早くロ**

スカットすることが重要です。特に今週はボラティリティが高く一瞬で逆張り方向に数十 pips 不利に振れることもあります。躊躇すれば損失拡大につながるため、自動売買のロジック上でも逆張りエントリー時のストップをタイトに入れるか、許容損失額を平常時より小さく設定しておくで安心です。

- **トレンド転換の兆しを見極め:** 逆張りが成功しやすいのは**主要なトレンド転換点**です。例えば米中や米欧の通商交渉が妥結に向かう、といったニュースが出れば市場心理が一気に転換し、これまでのドル安・円高トレンドが反転する局面が訪れるかもしれません。しかし現時点ではその兆しは乏しく、むしろ報復合戦への警戒が高まっています。したがって、逆張りを仕掛けるなら**短期的なテクニカル反発狙いに留め、利食い目標も浅めに設定**するのが無難です。深追いは禁物で、少しでも反発して利益が乗ったら早めに確定する、負けたら早めに撤退するという**機動力**が求められます。
- **指標発表直後の値動き:** CPI や PPI 発表直後は値が飛びやすく、その直後の逆張りは特に危険です。サプライズ数値で一方向に動いた際、「行き過ぎ」と思って逆張りすると、実は市場はその新情報を織り込む途中でさらに数十 pips 進む、といったことが起こり得ます。今回の関税ショックでも、ドル安が進む局面で ISM 指数の弱含みなど悪材料が重なってもドルはほとんど戻さず売られました ([NY外為市場=ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#))。このように**悪材料には素直に反応し良材料には鈍感**というマーケット心理では、逆張りは成功しづらいです。特に**指標トレンドと既存トレンドが同方向の場合(例: 関税ショック下でインフレ低下=ドル売り材料) **は、その方向に一気に走りやすく逆張りの入り込む隙がない点に留意しましょう。

以上を踏まえ、逆張り戦略は今週**最も慎重に運用すべき戦略**と言えます。強いトレンドには逆らわないことを基本に、どうしても実行する場合は**小さく素早く**を徹底してください。相場格言「トレンドはフレンド」に反するエントリーには常にリスクが伴うことを再認識しましょう。

3. ブレイクアウト (重要価格帯の突破狙い)

戦略概要: チャート上の重要な支持線・抵抗線を価格がブレイクした瞬間に順張りでエントリーし、大きなトレンドに乗る手法です。今週のように**市場のボラティリティが高まりトレンドが発生している局面**では、ブレイクアウト戦略は好機を迎えます。実際、先週後半には各通貨ペアで重要水準の突破が相次ぎ、ブレイクに沿った取引が奏功しています。

- **相場動向とブレイクポイント:**

- **ドル円 (USD/JPY) :** 直近では **148 円付近の下値支持**を明確に割り込み、

急落が進みました。このブレイクによりテクニカル的には下落トレンドが強まり、次のターゲットとして **145 円**や **142 円**台が視野に入っています。特に 142 円前後は市場関係者が言及する水準でもあり、この付近まで円高が進むか注目されます。一方上方向は、148 円を上回っても **150 円**という大台が直上に控えており、仮にリスクオンで反発しても 150 円付近では戻り売りに警戒です。150 円突破となればそれ自体がサプライズであり、上昇加速の余地もありますが、現状では可能性は高くありません。ブレイクアウト戦略的には下方向（円高方向）のブレイク狙いを引き続き重視する場面と言えます。

- **ユーロドル (EUR/USD)** : 先週 **1.10 ドルの壁**を上抜けたことで、ユーロドルは新たなレンジに突入しました ([NY外為市場=ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#))。このブレイクアウトは 2015 年以来の大幅な単日上昇というモメンタムを伴っており ([相互関税巡る混乱、ユーロが意外な勝者に - 対ドル6カ月ぶり高水準 - Bloomberg](#))、マーケットのセンチメントがユーロ強気に一変しています。今後も上昇が続けば、次のレジスタンス候補は **1.12 前後** (過去の節目、オプションバリア観測) や、さらにその上の 1.15 も中期的には視野に入るかもしれません。反対に下方向は、一度ブレイクした 1.10 がサポートに転換する可能性があります。ブレイクアウト戦略では、この **1.10 前後の攻防**に注目しつつ、上に抜ける勢いが再度出れば追従、下に戻り込んだ場合は一旦撤退といった柔軟な対応が求められます。
- **ポンドドル (GBP/USD)** : ポンドドルは **1.30 ドル**を明確に越えられるかがポイントです。先週末時点では 1.30 台前半で推移しましたが ([NY外為市場=ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター](#))、欧州通貨としてはユーロほど材料に恵まれず上値追いに限界も見えます。ただしドル安基調が続く限り下支えはあるため、**レンジブレイク狙い**としては 1.30 を挟んだ攻防からの離脱に注目します。具体的には 1.3050 を上抜けてくれば直近高値更新でさらなる**上昇トレンドに乗るシナリオ**、逆に 1.29 割れに沈むようだとドル反発=ポンド下落トレンドへの転換も考慮されます。経済指標 (例えば英国サービス PMI など) の影響も受けやすい通貨なので、ブレイク発生時にはその背景も確認し、**ファンダメンタルズとテクニカルの合致**を見極めるようにしましょう。
- **AUD/CAD (豪ドル/加ドル)** : 先週は **0.89→0.86 近辺**への急落という大きなブレイクダウンが起きた模様です (対ドルでの AUD 安・CAD 高の交差) ([Trump's reciprocal tariffs dominate currency markets - TorFX News](#))。この結果、豪ドル/加ドルは中期レンジを下放れし、明確な下降ト

レンドに入った可能性があります。テクニカル的なサポートは **0.85** 前後に控えており、ここを割ると 2010 年代以来の安値圏に突入するため注意が必要です。一方、急落後の調整で 0.88~0.89 台へ反発する場面では、その水準が新たなレジスタンス（上値抑制帯）となる可能性があります。ブレイクアウト戦略では引き続き**豪ドル安トレンドのフォロー（下方向ブレイク）**を基本としつつ、**商品市況や米関税動向によっては変動が振れやすいペアゆえ利確目標は欲張らず確実に取る姿勢が望ましい**でしょう。

○

- **注意点:** ブレイクアウト戦略を活用する上での一般的な留意事項として、
 - **ダマシ (False Break) に注意:** ボラティリティが高い相場では、一時的に重要ラインを抜けてもその後反対方向に急反転する「ダマシ」の頻度も上がります。例えば指標発表直後に上下にヒゲをつける荒い値動きの中でブレイクしたように見せかけ、実は飛び乗った途端に逆行するといったケースです。今週は特に CPI/PPI 発表時や要人発言の直後にこの現象が起りやすいです。**ブレイク方向の持続を確認してからエントリーする**（5分足ではなく 15分足や 1時間足で実体を伴って抜けるのを待つ等）、あるいは**通常よりエントリー数量を減らす**ことでダマシのリスクに備えましょう。
 - **指標との連動:** 上記の通り、経済指標やニュースヘッドラインはブレイクの**起爆剤**になり得ます。例えば 4/10 の米 CPI が予想を大幅に上回った場合、一時的にドル買いが強まりドル円が急騰→直近高値をブレイク、といった動きも可能性としてはあります。しかしその背景（高インフレ=将来の利上げ観測 vs 景気減速下のスタグフ懸念）によって持続性が決まります。したがって、ブレイクアウトでエントリーした後も**ファンダメンタルズの方向性を常にフォロー**し、「材料として続く動きか否か」を判断する必要があります。特に今週は関税関連ニュースと経済指標が混在するため、仮に指標でブレイクしても他の材料で相殺されるリスクがあります。この点でも**利食い・損切りの機敏な執行**が求められます。
 - **ボラティリティ管理:** ブレイクアウト戦略は順張りゆえ、大きなトレンドを取れる半面、損切り幅も大きくなりがちです。今週は主要通貨の 1 週間物ボラティリティが平時より高騰しており、例えばドル円の 1 週間予想変動率は 15.56%（年率）と高水準です。これは日単位でも数円動く可能性を示唆します。よって利益目標・許容損失額ともに**通常より広めに設定**し、ポジション量もそれに見合った控えめな設定にすることが望ましいです。利益確定や損切りの絶対値が大きくなる点を踏まえ、****リスク管理ルール（1回のトレードで口座資金の○%までの損失に留める等）****を厳守しましょう。

ブレイクアウト戦略は今週のような局面では**最もフィットしやすい戦略**ですが、その分マーケットの過熱に巻き込まれない冷静さが要求されます。明確なトレンドに乗ることを意識しつつも、「木を見て森を見失わない」よう全体像を把握し、**主要サポート・レジスタンスやニュースの流れを常に確認**しながらトレードを実行してください。

まとめと提言

2025年4月7日から11日の週は、トランプ大統領の相互関税発表による**貿易戦争リスク**と**主要経済指標の発表**が重なる異例の相場環境です。ドル円・ユーロドル・ポンドドル・AUD/CADといった主要通貨ペアはいずれも通常を超える変動が予想され、各自動売買戦略に対して慎重な調整とモニタリングが必要となります。

- 朝スキャルでは**オープン直後の不規則な値動き**に備え、ポジション管理とニュースチェックを徹底すること。
- 逆張り戦略では**強いトレンドに逆らわない姿勢**を貫き、どうしても実行する際も小規模・短期に留めること。
- ブレイクアウト戦略では発生する**大きなトレンドに乗る好機**と捉えつつ、フェイクブレイクや乱高下に十分注意すること。

特に今週はマーケットの関心が貿易問題に集中しているため、**ヘッドライン一つで相場が数十 pips 動く**可能性があります。経済指標も平時以上に材料視されますが、それ以上に**政策・外交絡みのニュース**がボラティリティの震源地となり得ます。自動売買システム任せにせず、人間の目で状況を把握しながら**必要に応じてシステムを一時停止する判断**も含めたリスク管理体制を整えてください。

最後に、ボラティリティが高い相場は裏を返せば**大きな収益機会**でもあります。適切なリスクコントロールのもとで戦略を運用すれば、トレンドに乗った利益獲得も期待できます。十分な準備と慎重な運用で、この波乱の相場週を乗り切りましょう。[\(NY外為市場 = ドル対円・ユーロで6カ月ぶり安値、トランプ関税の影響見極め | ロイター\)](#)